

平成22年度

第53回京都府PTA研究大会 ご 案 内

大 会 テ ー マ

「子どもたちの笑顔輝く ^{あす}未来へのかけはし」

～ きずな！ ふれあい！ 親と子 ～

平素は、本協議会の運営・活動に、深いご理解と格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成22年度第53回京都府PTA研究大会を「海とシルク」のまち与謝地域において、開催いたします。

子どもたちの健全育成と、共に生き、共に学ぶことによって自らが高まることを目指す私たちPTAが、日頃の活動の交流や研修を行い、相互の連携を深めることを望んでいます。

多くの皆様方のご参加を心からお待ちいたしております。



KAMO P.T.A SUPPORTERS

P=Parent：ペアレント	(親と)
T=Teacher：ティーチャー	(先生が)
A=Association：アソシエーション	(手をつなぎ)
C=Community：コミュニティ	(地域社会全体で)
H=Hug：ハグ	(子供をだきしめよう)

PTAにTOUCH(タッチする、接触する)からつくった造語です。

平成22年8月

京都府PTA協議会
会 長 堀井 裕司

平成 22 年 度

第 5 3 回京都府 P T A 研究大会

開 催 要 項

1 大会趣旨

京都府内の P T A 会員が一堂に集い、会員相互の交流と学習を通して、教育の原点は家庭教育にあるという自覚のもとに子どもたちの健やかな成長を願い、家庭教育の充実に努める。そのためには、学校・家庭・地域社会が連携し、様々な体験活動の充実や地域の人々との絆を深めて、子どもたちを育てる環境作りに努めるとともに、会員相互が協力し合って豊かな人間性を育む P T A 活動を追求する。

2 大会テーマ

「子どもたちの笑顔輝く ^{あす} 未来へのかけはし」
～ きずな！ ふれあい！ 親と子 ～

3 主 催 京都府 P T A 協議会

4 主 管 与謝地方 P T A 連絡協議会

5 後 援 京都府・京都府教育委員会
京都府市町村教育委員会連合会
宮津市・宮津市教育委員会
伊根町・伊根町教育委員会
与謝野町・与謝野町教育委員会
与謝野町宮津市中学校組合教育委員会

6 日 時 平成 22 年 10 月 24 日（日） 9：30～15：00（受付 9:00～）

7 会 場 宮津会館 (宮津市字鶴賀 2 1 6 4)
みやづ歴史の館 (宮津市字鶴賀 2 1 6 4)
J A 京都宮津支店 (宮津市字鶴賀 2 1 4 1)
宮津市福祉センター (宮津市字鶴賀 2 0 8 5)
宮津市保健センター (宮津市字鶴賀 2 1 0 9－2)
京都府立海洋高等学校 (宮津市字上司 1 5 6 7－1)

8 参加者 京都府 P T A 協議会会員（各単位 P T A 2～3 名）
及び学校教育・社会教育関係者 約 1 0 0 0 名

9 日 程

9:00	9:30	9:50	10:50	11:50	12:10	13:30	15:00
受 付	オ ー プ ニ ン グ	全 体 会			昼 移 ・ 食 動	分 科 会	閉 会
		開 表 会 彰 式 式	講 演	閉 会 式			
受 付	特 別 分 科 会				昼 食	特別分科会	閉 会

◆ 全体会 （会場 宮津会館大ホール）

＊ オープニング

「宮津おどり」 宮津おどり振興会

＊ 講演

演 題 「あーよかったな あなたがいて ～『優しさ』という温かい貯金～」

講師 教育サポーター 仲 島 正 教 氏

◆ 分科会

分科会		研究課題	担当都市連P	会場(収容人数)
1	組織・運営	P T A会員の意識向上とP T Aの役割を問い直し、地域のP T Aとして魅力ある組織になるための方策を考える。	舞鶴・相楽	みやづ歴史の館 文化ホール (150人)
2	生涯学習 読書活動	P T A活動を楽しみながら取り組む生涯学習の場として捉え、大人が子どもたちと共に成長するための家庭・学校・地域社会の連携のあり方を考える。	綾部・南船	宮津会館 大ホール (500人)
3	人権教育	一人一人の尊厳と人権が尊重される社会の実現に向け、家庭・学校・地域社会など身近な生活の場において、同和問題などあらゆる人権問題の解決に向けた学習活動を促進し、人権尊重を日常の習慣として身に付け実践できる方策を考える。	福知山・城久	宮津市 中央公民館会館 大会議室 (みやづ 歴史の館3F) (110人)
4	青少年 健全育成	青少年の関わる問題が多発する中、家庭の果たすべき役割や責任について考える。 さらに、青少年が健全に成長するために家庭・学校・地域社会が連携できるP T A活動のあり方を考える。	京丹後・綴喜	宮津市 保健センター (100人)
5	広報活動	情報の伝達手段が多様化する中、P T A会員が情報を共有し、親しみ、役立つ広報のあり方を考える。 さらに、地域社会とともに情報を共有できる広報についても考える。	乙訓・亀岡	宮津市 福祉センター (80人)
6	家庭教育	子育てにおいて、家庭の教育力が益々重要視される中、子どもの生きる力をさらに高める家庭のあり方や親としての心の成長を、参加者が共に考え体感する。 また、「親のための応援塾」の充実に向けた実践的セミナーを行う。	府P T A 家庭教育委員会・親のための応援塾企画委員会	J A 京都宮津支店 大会議室 (200人)
7	特別分科会	親子で一緒に何かをする機会は、いつでもできそうでなかなかできない。日常とは違った環境の中で、親子とのふれあいを通して、お互い新たな発見をして、子育てについてじっくり考えることで、家庭教育の充実をはかる。 親子でふれあい体験を通して、親子のきずなを深める。	与 謝	京都府立 海洋高等学校 (100人)